

弘果定時株主総会



代表取締役社長

大中 徹氏

弘果弘前中央青果株式会社は5月28日、弘果大会議室において第55期定時株主総会を開催しました。

本総会では、取締役14人選任の議案に対して株主から修正動議が提出され、取締役5人選任案が賛成多数で可決されました。

総会終了後に開催された取締役会において、代表取締役社長に大中徹氏、専務取締役会田一男氏、大中実氏、大中努氏、取締役に高木登氏がそれぞれ就任しました。

就任にあたり大中新社長は『「新生弘果」』として、市場や業界を取り巻く様々な課題に真摯かつ迅速に対応していきます。また、株主の立場に立つて考え、全てのステークホルダー（利害関係者）に利益をもたらし、幸せを実感していただける会社を目指して、前向きに取り組んでいきます」と決意表明しました。

過去最高値を更新



50万円を付けた瞬間

当社オリジナルブランドのつがりあんメロン「アムさん」の初競売が6月5日、当社第1卸売場で行われました。

競売では、秀品・2玉入り1箱が50万円で競り落とされ、過去最高値を記録し、好調なスタートを切りました。

2玉入
50
万円

で栽培した64ケース（497^キ）
黒石市の種市美夏さんが加温ハウ
スで栽培した8ケース（60^キ）の
計102ケース（798^キ）が上
場されました。当社農産指導課に
よると、今回出荷された「アムさ
ん」は、3月の定植後から平年を
上回る気温で推移し、5月の生育
期も天候に恵まれたことから、昨
年より大玉傾向となりました。糖
度は16度以上を確保し、果皮の仕
上がりも良好で、品質は上々との
ことです。

午前7時から始まった競売には、青森オリジナルメロン生産連絡協議会の渋谷充会長をはじめ同協議会役員、生産者の阿部さんや松橋さんが見守る中、次々と取引されました。1キ^ロ当たりの平均単価は2639円となり、前年を上回る結果となりました。

14年連続で「アムさん」初競売

弘果グループ定時株主総会

弘果グループ6社では5月下旬に定時株主総会が行われました。

また各社において、役員の就任がありました。

(株)弘前水産地方卸売市場

《第3集》

第36期

(株)津軽りんご市場

《卷3 其》
《公果念言研究開卷》

第22期

(株)スコーレ
第3期

《第3集》
弘果りんご園株)

第11期



工藤 敦氏

弘前水産地方卸売市場
取締役 會田一男氏
津輕りんご市場
取締役 工藤敦氏

「アムさん」は7月上旬に出荷のピークを迎える見込みで、今シーズン全体で約2万ケースの出荷を予定しています。

五所川原農林高等学校

青森オリジナルメロン生産
連絡協議会（渋谷充会長）と
当社は5月26日、後継者育成
事業として、農産指導課職員
の指導を受けながら作業を開
始し、それぞれが役割を分担
しながら熱心に取り組んで
いました。

事業の一環として、青森県立五所川原農林高等学校でメロン栽培実習を実施しました。同事業は今年で21年目を迎え、地域農業の担い手育成と青森県産メロンの生産振興を目的に継続して実施しており、次世代を担う若い力への期待が高まっています。今回は生物生産科1年生11人が参加し、つがりあんメロン「ハニーゴールデン」の苗170本を定植しました。

同校の園地（約3アール）で行われる実習に先立ち、渋谷会長が「この事業をきっかけにメロン栽培に従事している卒業生がいることを大変うれしく思います。実習を通じて多くのことを学び、高品質でおいしいメロンづくりに励んでください」と生徒たちを

ハニーゴールデンを定

実習を終えた生物生産科1年の齊藤太陽（たいう）さんは、「今回の実習を通じて、メロン栽培への理解を深めることができました。特に植え付け時の土の深さを調整するのが難しかったです。これから栽培管理をしつかり行い、先輩方に負けない立派なメロンを育てたいと思います。また、この実習を通じて将来メロン農家になることも選肢股の一つとして考えてみたいですね」と話していました。

生徒たちは今後、栽培管理から収穫、出荷までの一連の作業に取り組み、実践的なメロン栽培について学んでいく予定です。



植穴の深さを確認し定植する生徒たち



植穴の深さを確認し定植する生徒たち

栗こ南瓜を定植
柏木農業高等学校

青森県立柏木農業高等学校では5月25日、弘果オリジナルブランド「つがりあん」の「栗こ南瓜」の苗を定植しました。

当日は、生物生産科1年生20名が参加し、当
社農産指導課職員の指導を受けながら作業を实



施しました。生徒
 たちは苗の向きや
 土のかぶせ方に注
 意しながら、4呎
 のほ場に150本



丁寧に定植



今後、生徒たちは収穫までの3ヶ月間、高品質な南



丁寧に定植する生徒たち

今後、生徒たちは収穫までの3ヶ月間、高品質な南

瓜を旨指して栽培管理に取り組みます。そして収穫、出荷後には量販店の店頭に立ち、自ら育てた南瓜の販売体験を行う予定で、生産から販売までの一連の流れを実践的に学びます。

生物生産科1年の工藤菜（しおり）さんは「この実習では、作物を栽培して収穫するだけではなく、自分たちで販売し、その結果を次の栽培に生かしていくことまでを大切にしています。実際の生産者が行う『仕事としての農業』を体験できるのは、農業高校ならではの学びです。この実習を通して、弘果をはじめとする取引先（販売店等）や消費者の皆様に『また買いたい』と思ってもらえるような『商品』を作れるよう、一生懸命頑張ります」と意気込みを語りました。

「農」の「業」を継ぐ

期待の後継者



森山

剛央さん(48)

家業である「農業」に希望を見出し、夢に向け努力する期待の後継者を紹介します。

【園地所在地】弘前市樹木他
【作付状況】りんご・1.5畝
【就農年】2018年
【きっかけ】りんご農家に生まれ育ちましたが、学生時代は家業を継ぐことを特に意識しておらず、高校卒業後は重機関連企業に長く勤めていました。仕事に追われる日々の中で

【現在】就農後は父を師匠として、りんご栽培の技術はもちろん、農業経営をはじめとする幅広い仕事を学んできました。実践を重ねる中で経験を積み、現在では多くの仕事を任せてもらえるようになりました。また、地域のりんご生産者とのつながりも大きな支えとなっています。情報交換を通じて新たな気づきや学びを得る機会が多く、

【座右の銘】「努力に勝るものは何ものもなし」高校時代の恩師からいただいた言葉です。どんなに才能や環境に恵まれていても、最後に自分を成長させ、目標へ近づけてくれるのは努力だと考えています。努力はすぐに結果が出るものではありませんが、継続して積み重ねることで大きな力になると思います。つらい時や壁にぶつかった時でも、この言葉を胸にあきらめずに挑戦し続けられる人でありたいです。

家業を手伝う機会も少なく、どこか家業から距離を置いていたように思います。しかし、年齢を重ねるにつれて父の仕事への負担が大きくなっていくことを感じるようになり、改めて家業と向き合うようになりまし

日々良い刺激を受けながら研鑽を重ねています。「師匠である父を超える」とまでは言いませんが、父から受け継いだ技術や思いを大切にしながら、りんご生産に誇りを持ち、今日も一つひとつの仕事に真摯に向き合っています。

【夢・展望】「家業のりんご園を守っていく」就農を決意したときに掲げたこの思いは、今も私の変わらない信念です。ただ守るだけではなく、課題を見つけて改善を重ね、より良い形で次の世代へ引き継いでいくことが大切だと考えています。これからも挑戦する姿勢を忘れず、受け継いだりんご園を守り育てながら、地域に根差したりんご生産を続けていきたいです。



各店舗それぞれに工夫を凝らした売場を展開



ゼスプリキウイ販売コンテスト開催

当社で取り扱うニュージーランド産「ゼスプリキウイ」の販売コンテストが6月6日から7日、紅屋商事が経営するカブセンター及びベニーマート計12店舗で開催されま

した。このコンテストは、キウイフルーツの販売実績や売場づくりの工夫を競うイベントです。各店舗ではコンテストに合わせた売場演出に力を入れ、消費者の購買意欲を高める魅力的な売場を目的として展開しています。ニュージーランド産「ゼスプリキウイ」の価値や特長を来店者へ効果的にアピールするとともに、売場の活性化や販売意識の向上にもつながる取り組みとなりました。

来店者からは「見ているだけでも楽しく、つい買ってしまいます」「これから数日は毎日の食卓にキウイが並ぶくらい購入しました」などの声が聞かれました。当社担当者は、「このコンテストは、来店者数の増加や売場のアピールを通じて、『ゼスプリ』ブランドの認知拡大とキウイカテゴリー全体の販売拡大につながる取り組みです。今後も店舗との連携を強化し、優良事例の共有や継続的な売場提案を行うことで、さらなる販売促進と販売拡大に努めてまいります」と話していました。

弘果花き部 花育活動

弘果花き部では「青森県花のくにづくり協議会」が推進する花育・園芸体験活動の一環として、



弘前市内の小学校で行われた「親子フラワーアレンジメント教室」

花をより身近に感じてもらうことを目的に、さまざまな場所での体験学習を開催しています。今年度は、弘前市内の小学校において「親子フラワーアレンジメント教室」を開催しました。参加者は花に触れながらアレンジメントづくりを楽しみ、花の魅力や楽しさを学びました。今後、地域に根差した花育活動を積極的に展開していく予定です。

北海道の中学生弘前で農泊体験

弘果総合研究開発は5月、弘前市小沢地区の農事組合法人しみず(石山敬代表理事)が受け入れた修学旅行生の農泊に協力し、りんご園での農業体験を支援しました。

弘果総研では、県外の子どもたちに青森県産りんごをより身近に感じてもらうとともに、青森県の農業やりんご産業への理解を深めてもらうことを目的に、農業体験の受け入れに協力しています。

弘果総研モデル園でりんごの摘花作業に挑戦

今回農泊を体験したのは、北海道苫小牧市内の中学校3校から訪れた13人の生徒たちです。生徒たちは、弘果総研が運営するりんご園を訪れ、りんごの摘花作業を体験しました。作業に先立ち、りんご栽培の基礎や摘花の目的について説明を受けた後、実際に花を摘み取りながら、りんごづくりの大切さや農



指導のもと摘花を体験する生徒

生産者憩いの集い
7月4日(土)
午前11時から
蒔穂集荷所で開催

青果TS受付は
蒔穂集荷所でも行います
受付時間
午前11時～午後3時30分
6/29(月) 7/2(木)
7/6(月) 7/9(木)
7/13(月) 7/16(木)
7/23(木) ※費用: 3,000円
(令和9年3月31日まで有効)
お問い合わせは、弘果総合研究開発まで
TEL: 0172-29-4184

木造地区集荷所
2ヶ所同時オープン
6月28日(日)
弘果木造集荷所(南広森)
【営業時間】午前8時～午後5時
【電話番号】0173-26-3880
弘果蒔穂集荷所
【営業時間】午前8時～午後5時
【電話番号】0173-45-3460

花育活動について、花き部の森悟次長は、「花きは、生活に潤いと心の豊かさをもたらす身近な存在です。花のあるライフスタイルの定着につながるよう、学校や職場、弘果グループ関係団体などと連携しながら花育活動を推進していきたいと考えています。今後も花きへの理解と関心を深める機会を創出し、業界全体の活性化につなげていきたいです」と話していました。